

年頭のごあいさつ

丙午

坂城町長 山村弘



明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

今年の干支は丙午（ひのえ・うまへいご）の年です。「丙」の上部の「一」は陽気を示し、さらに、下の「冂（けい）」の囲いのなかに陽気が「入」ることを意味し、エネルギーが膨れ上がることで勢いが増します。

又、「午」は杵形の（呪器）を意味し、「陰気が陽に逆らいながら成長する」とされていますので、丙午は、「在来の支配的代表勢力が大いに伸びて盛んになる反面、それに対する反対勢力が内側から突き上げてくる。これに対し適切に対応できれば素晴らしい大変革ができる」ことを指すため、今後の様々な変革が期待されるところです。

さて、昨年を振り返りますと、第2

次トランプ政権が打ち出した米国の関税至上主義は、貿易・サプライチェーンへの不確実性が高まり、為替や調達、価格設定への影響など世界情勢に混乱を招き、ロシアによるウクライナ侵略の継続やイスラエルによるガザ地区における人道的危機の継続のみならず、停戦も不透明な情勢です。

国内では、石破政権に続き日本の歴史上、初めての女性総理大臣が誕生したほか、県内では阿部知事が全国知事会の会長に就任され、医療、福祉、産業振興、国土強靱化など多様な課題に対し、国政との連携を強めることで、まさに「丙午」の大きな変革を予感させる方も多いのではないのでしょうか。

昨年は、「さかきものづくり展2025」がコロナ禍を経て、実に8年ぶりの実物展示として、町内企業をはじめ、連携協定を締結している4つの大学や支援機関を含む26の企業・団体が出展して開催されました。

特に、タイアップ企画の「さかきオープンファクトリー」では、町内小中学校や坂城高校の児童・生徒の皆さん300名が、町内18社もの工場見学やものづくり体験を通じて、「ものづくり」の魅力や地域ポテンシャルの再認識につながる契機となり、参加者が時間を忘れて楽しんでる様子が印象的でありました。次代を担う若者がこうした技術や創造性に触れる機会を設けていただいたことに深

く感謝申し上げます。

また、初めての試みとして開催された「ONSENガストロノミーウォークキング」は、その土地ならではの食や自然、歴史文化、温泉といった魅力を総合的に体験できる全国的な催しとして広く認識されており、本町では、坂城駅からびんぐし湯さん館までの9kmを135名もの全国の方にご参加いただきました。参加者からは「今度は家族で参加したい」など大変好評で、当町の地域資源や魅力を存分に体感していただいたほか、我々も地域の持つ魅力をあらためて確認することができ、体験型の観光振興や交流人口の増加へ向け、今後の事業展開の布石にしたいと考えております。

新複合施設につきましては、昨年度の基本設計を踏まえ、現在さらに詳細な実施設計を実施しており、具体的な施設や活用法を住民の方々にも情報共有しながら、令和8年度から予定されている建設工事に向け、着実な事業進捗を図ってまいりたいと考えております。

一方、葛尾組合では製品プラスチックの収集に対応した新リサイクルセンターの建設を実施しており、昨年4月には起工式を挙行し、令和9年3月の完成に向けて建設工事がスタートいたしました。

町としては、引き続きごみの排出量の削減や分別の徹底によるごみの減量化に努めるとともに、葛尾組合及び千曲市と連携しながら、資

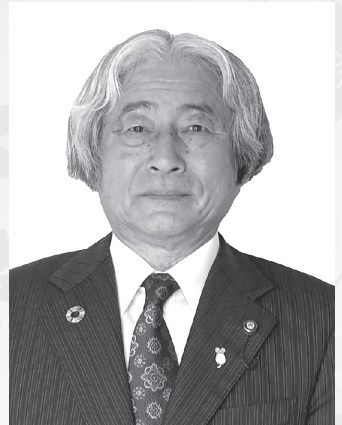
源循環の前進に向け、適正なごみ処理システムやリサイクルシステムの構築を図ってまいりたいと考えております。

「デマンド交通（乗り合いタクシー）」が昨年4月から本格運用となり、昨年11月末現在、登録者は439名を超え、ひと月当たりの平均利用者は432名と、たいへん多くの方にご利用をいただいております。町としても重要な地域交通のひとつの手段として今後も運輸局やタクシー事業者等関係機関と連携し、より利用しやすい仕組みとなるよう取り組んでまいりたいと考えております。

町の最上位計画である「第6次長期総合計画」の後期基本計画及び「第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略」につきましては、政策の方向性を統一し、より力強い施策の推進につなげるための一本化を図るとともに、新たに令和8年度から令和12年度を計画期間とする計画策定を進めております。このなかでは、「輝く未来を奏でるまちwellbeingの実現をテーマに住民すべての方が心身や社会的にも満たされることの実現に向けた新たな視点を踏まえ、情勢変化や住民ニーズに基づいた施策を織り込んだ町の将来像をさらにブラッシュアップしながら、策定に努めてまいります。

町民の皆様におかれましても、本年が良き年になりますようお祈りし、新年のごあいさつとさせていただきます。

令和8年 2026 迎春



坂城町議会議長

中嶋 登

新春を寿ぎ、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、希望に満ちた新しい年を健やかにお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年の日本では、物価高が続き国民生活に大きな影響を与え、食品や日用品の値上げが相次ぎました。

円安の進行により輸入原材料の価格が上昇し、燃料費や電気料金の高止まりも重なって、町民の皆さまの家計にはこれまで以上の負担がのしかかりました。特にガソリン代や物流コストの上昇は生活のあらゆる場面に影響を及ぼし、多くのご家庭が節約を迫られる一年となりました。

また、中小企業の人手不足も深刻化し、地域産業の維持に向けた支援

策の重要性が一段と高まりました。

観光需要の回復が進む一方、地方では燃料費高騰や人材確保の難しさが課題となり、地域全体で持続可能な経済基盤を構築する必要性が指摘されました。これらの問題は町民生活とも密接に関わり、今後も国や自治体が連携しながら対策を進めていくことが求められます。さらに、

猛暑・豪雨・突発的な寒波といった極端な気象が短い周期で繰り返され、気候変動が私たちの生活に直接影響する時代に入ったことを強く実感させられました。

農作物の生育への影響、災害リスクの増大、水資源の確保など、国内全体で向き合うべき課題が一層明確になった一年でもあります。

世界情勢に目を向けますと、ロシアのウクライナ侵攻、パレスチナ問題等で紛争が長期化し、停戦の見通しが立たない状況が続いています。

一般住民の犠牲が増え続け、国際社会全体の安定が揺らいでいることは深刻であり、こうした不安定な情勢は物流網やエネルギー供給を通じて日本にも間接的な影響を及ぼしております。

経済においても、原材料価格の急変動や物流の遅延が続くなど、不確定性の高い状況が続きました。先進国・新興国問わずインフレ圧力が強

まり、各国の金融政策や米国のトランプ政権の関税政策が世界市場に影響を与える場面も多く見られました。こうした複雑で相互に影響し合う国際環境の中で、日本を含む各国が安定した発展を維持するためには、より強固な協力体制が不可欠であることが強く意識されました。

そのうえ、地球規模での気候変動が各国で異常気象や大規模災害を引き起こし、食料安全保障の問題、資源を巡る競争、国際協調の難しさなど多くの課題が浮き彫りとなりました。まさに世界が同時に複数の危機へ直面する複雑な時代であり、国際環境の安定が私たちの日常生活を支える基盤であることを改めて痛感する一年となりました。

このような国内外の厳しい環境の中にあっても、地域社会が互いに支え合い、町民一人ひとりが安心して暮らせるまちを守ることが何より大切です。

私たち議会といたしましても、国内外情勢の変化を的確に捉え、町民の皆様の声を基に町民生活を守るため、より良い未来へ向け粘り強く取り組みを進めてまいります。

また、主権者教育の一環として、全国町村議会議長会等が作成した『議会の主権者教育リーフレット』を町内小中学校に配布し、若い世代が地

域課題や政治の仕組みに触れる機会を提供しました。

このリーフレットは、人気漫画『葬送のフリーレン』のキャラクターが登場する分かりやすい内容となっております。子どもたちが議会活動に関心を持つきっかけとして大変意義のある取り組みとなりました。

本年1月31日には「これからの坂城町を語ろう」町民と議員との意見交換会を開催し、多くの皆様から町の将来像や日頃感じておられる課題について、率直かつ多様なお声をいただくこうと考えております。幅広い世代から活発な意見を伺うため、土曜日午前に開催することで参加しやすいの向上を図りました。

意見交換会で寄せられるご意見は、今後の議会活動における重要な指針となり、今後の施策検討に反映してまいりたいと考えております。大勢の皆様のご参加をお待ちしております。

結びに、本年が皆様にとりまして安全で、そして希望に満ちた一年となりますことを心より祈念し、新年のご挨拶といたします。

